

松本市での街頭演説会（4月10日）

3野党本部代表、羽田次郎さんの訴え（詳報）

市民と野党の統一候補、羽田次郎さんを応援するため立憲民主党・枝野幸男代表（衆議院議員）、日本共産党・田村智子副委員長（参議院議員）、社会民主党・福島瑞穂党首（参議院議員）が4月10日、松本市の街頭演説会に駆けつけました。3人の演説と羽田次郎さんの訴え、信州市民アクション共同代表・又坂常人さんのアピールは、約350人の聴衆に共感を呼びました。演説内容を詳報します（要旨）。

「市民一人ひとりが主役の政治に変える」

立憲民主党代表 枝野 幸 男

■なぜわたしはここにいるのか

立憲民主党代表の枝野幸男です。なぜ今日わたしはここにいるのか。羽田雄一郎さんが急に亡くなられたからです。去年の9月、なんとか野党側に、政権の受け皿の中核になるしっかりとした規模の柱を作らなければならないということで、大同団結して立憲民主党スタートさせた。それが出来たのは、羽田雄一郎さんが、参議院をうまくまとめてくれたからに他なりません。お互いまだ50代半ば、もっと一緒に仕事が出来ると信じていました。本当に悔しい思いです。ふるさとの未来を託しておられた今日お集まりの多くの皆さんにとっても、本当に残念なことだろうと思います。

■2回にわたる参議院選挙の市民と政党の共闘

だからその議席は、その志を引き継いでいける人に、しっかりと継いでもらわなければならないとわたしは思います。皆さんはいかがでしょうか。羽田次郎さんが、しっかりとその思いを引き継いで、立ち上がってくれた。長野の2回にわたる参議院選挙、本当に幅広い政党と市民の皆さんと一緒に支えて頂いた、その皆さんとスクラムを組むことが出来た。必ず勝ち抜かなければならない選挙だと思っています。

■コロナの拡がりには政治の責任

雄ちゃんが命を失ったのも、新型コロナウイルス感染症です。どうして検査が広がらないのか。日本だけ人口当たりの検査数が異常に少ない。1年前からPCR検査を増やせという法案を出していますが、与党・自民党は審議拒否しています。検査をもっと簡単に早くできれば、

感染を封じこめることが出来たかもしれません。雄一郎さんが亡くなったとき、ご家族でさえPCR検査を受けたのは年が明けてからです。考えられないことです。最近、首都圏・東京などでは、感染者のそばの濃厚接触者の追跡は出来ないとやめました。広がるに決まっている。これは政治の責任じゃないでしょうか。

政治がしっかりしていたらこんなことにはならなかった。

■マスクのいない3つの国

わたし達は「zeroコロナ」戦略という看板を掲げました。ゼロになんかなるわけない、という反論は覚悟のうえです。しかし「zeroコロナ」戦略で成功して、マスクも自粛もせず、大集会も飲食もOKという国がある。台湾、オーストラリア、ニュージーランドです。これらの国は、徹底して検査しました。外国から入って来る以外、感染がない状況を何回も続けている。だから世界の国々でも、この3つの国が一番早く回復しています。この3つの国は全部島国です。港や空港で抑えたら、外国から入ってくるのは止められる。日本も同じ島国じゃないですか。



■現場の声を聞かなかった8年間

去年暮れから、年明けにかけて、変異株が出て、そして第4波。残念ながら、国民の暮らしを見ていない。「GOTOトラベル」で地域に根差した観光業者の皆さんどれくらい潤いましたか。現場の状況に目を向けていない。医療だって、実際の感染症のCOVID19の治療にあたっている現場の声を聞いたってどこかのニュースで見ましたか。全部えらい学者の先生、えらい何とか会長さんの声しか聞いていない。だからズレる。これが8年続いてきてしまいました。それが今この危機のときに、ダメさが一気に噴き出しています。

■市民が主役の政治に変える

この補欠選挙は、一人一人の暮らしを、草の根の声を、しっかりと受け止めて、暮らしの実態に合った政治へと変えていく、その大きなきっかけにできる選挙です。まさにその選挙を戦う、暮らしのなかで、精一杯がんばって、地域を支えてきて頂いている市民の皆さんがたくさん集まって頂いて、今日こうして演説会を開催させて頂いた。あなたが、みなさんが、ひとりひとりが、主役の政治へと変えていく。その主役をしっかりと盛り立てるのが、わたし達、政治家の役割。

■暮らしの現場にしっかりと目を向けた政治へ

羽田雄一郎さんは、自分が主役になろうじゃない、周りの人、誰よりも信州の皆さんの声が主役だという政治をつくる活動をずっと国会でしていたから、僕らも信頼していた。多くの皆さんが彼に期待をしていた。今度は羽田次郎さんが、皆さんの声を主役にした、その政治をしっかりと前に進めていきます。その進めていくための場を作っていくのが、この補欠選挙です。わたし達も、今日、共産党の田村さんや、社民党の福島さんも、この場に来て頂いています。党派を超えて、多くの皆さんのお力を頂きながら、でも、主役は政党じゃない、政治家じゃない、皆さんの力と一緒に政治を変えていく、そのために全力を振り絞ります。お兄さんの分も、次郎さん誰よりも一生懸命頑張ります。でも主役は皆さんです。新たな力が必要です。新たな力で、この信州から、日本の政治を、命と暮らしを守るために、暮らしの現場にしっかりと目を向けた政治に変えていくために、共に戦っていこうではありませんか。どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

「市民と野党の共闘の根っこは平和を願う運動」

日本共産党副委員長 田村 智子

■痛みを胸に選挙を闘う

今日は、羽田次郎さんのお話を直接聞くのを何よりも楽しみに伺いました。そして本当に確信持って、応援できると思いました。大事なお兄さんを突然失ってしまった。その痛みを知っているからこそ、県内各地を歩いて、様々な痛み、様々な暮らしに、どうしたら寄り添っていくことができるかと、その声を胸に刻んで、この選挙を闘っておられるのではないのでしょうか。

■菅政権には覚悟もなければ政策もない

私も国会の質問準備のために、医療機関の皆さんからお話伺ったそのときの言葉を思い出しました。なぜ私たちは救える命が救えない、そんな思いをしなければならなかったのか。なぜ検査が広がらないのか、な

ぜ医療機関に赤字補填をしないのか、それで医療機関が闘えるのか。事業者・ひとり親家庭・生活困窮者への給付金、法案も出して、予算組替案も出して、重い扉こじあげようと動いてきた。でもそれでは追いつかない。今やっと無症状者へのモニタリング検査をやると言ってきたが、緊急事態宣言が解除された東京、3週間で231個の検査キットを配っただけ。これでどうして感染抑制していくことができるのか。菅政権には国民の命と暮らしと事業を守る覚悟もなければ政策もない。この選挙は、救える命がなぜ救えなかったのか、問わなければなりません。なんとしても勝ち抜いて、菅政権の政治を変えていこうではありませんか。

■市民と野党の共闘の原点



そして羽田次郎さんの応援へと繋がってきた、この市民と野党の共闘の原点、誇りある原点だと思います。海外で自衛隊が武力行使できる、憲法9条を踏みにじる安保法制を許してはならない、これが原点で、その後、野党と市民の共闘が前へ前へと進んできました。

長野県には、戦争の傷を我がこととして受け止めている方が大勢いらっしゃる。わたしも会ったことのない写真のなかでしか知らない叔母がいます。満蒙開拓団で満洲に渡って、引き揚げたから、胸を病んで若くして亡くなってしまいました。小学校で5年間お世話になった担任の先生も本当に苦勞をしながら満洲から引

き上げてきた、その経験を話してくれました。

■平和を求める長野県民の声を国政に届ける

なんで今の時代に、わたし達の国の自衛隊員が海外に出かけて行って、誰かの命を奪うかもしれないような、そんな法律がつくられなければならないのか、それは平和を求める、脈々と求め続けてきた長野県民の皆さんにとっては、どうしても許せない法律なのではないでしょうか。ここに根っこがあるから、どんなことがあろうと、市民と野党の共闘は決して崩れることはありません。その共闘の意味を深く胸に刻む羽田次郎さんをわたし達はぜひとも国会で、参議院の正面玄関で、お迎えしたい。皆さんのスモールボイスを、平和への願いを、命と暮らしを守れという願いを、国会に届ける確かな道です。なんとしても勝ち抜きましょう。わたし達、日本共産党も、わがことの選挙として、全力で頑張り抜く、このことをお誓い申し上げます。ありがとうございました。

「新自由主義の流れを長野から変える」

■羽田雄一郎さんとコロナで亡くなった人々の無念

何がなんでも羽田次郎さんを当選させたい。その思いでやってまいりました。

お兄さんの羽田雄一郎さんとは参議院のなかで本当に仲良くして頂きました。様々な委員会で隣同士に座って話をしてきました。亡くなったことがまだ信じられない。PCR検査を受ける前に、病院に行く前に、亡くなってしまった、その無念さはいかばかりでしょうか。長野の皆さんに、心からお願いです。PCR検査が受けられなかった自宅療養待機中に亡くなってしまった、そんな人が今の日本にたくさんいます。無念の思いで亡くならなければならなかった、その思いを受け止めて、この選挙で勝っていこうではありませんか。

■「生きてくれ」というスローガン

生活はどうでしょうか。失業者が増え、非正規雇用の皆さんも、正社員も大変です。雇止め・解雇増えています。今年の反貧困ネットワークのスローガンは、

社会民主党党首 福島瑞穂

「生きてくれ」です。政治の仕事ではないでしょうか。安倍政権、菅政権、あまりに支離滅裂。アベノマスクの500億円。菅政権のGOTOキャンペーン。コロナを抑え込みたいのか、広がっても構わないのか。この政権には、人の命と暮らしを守ることが政治だという覚悟がない。

■当たり前働き、安心して歳をとれる社会に

わたし達がつくりたいと思っているのは、当たり前働き続け、そして望めば、子どもを産み育て、安心して歳をとることができる、そんな当たり前の社会・生活です。でもその当たり前を得ることができない。



だから、みんなのための政治をつくりたい。こんなに格差が拡大し、とんでもない状況です。

■コロナ禍でも進む公立病院の再編統廃合

でも厚生労働省は公立病院の再編統廃合を進めようとしています。こんなに感染症が広がって、病床が逼迫しているなかで、まだまだ公立病院、潰そうとしている。病床減らすことに税金を出す、こんな政策おかしい。年収200万円以上の75歳過ぎた高齢者の皆さんに窓口の2割負担。どこまで社会保障を、どれだけ高齢者の生活を、破壊しようというのでしょうか。

■わたし達の生活など見ていない菅政権

新自由主義、竹中平蔵さん、小泉構造改革から突き

進む格差拡大の今の政治を一緒に変えていこう。それができるのは、優しい、優しい羽田次郎さんです。菅政権には、配分・公平、そして貧困救済、その言葉はありません。わたし達の生活など見ていない。

長野には、無言館があり、満蒙開拓記念館があり、優れた医療・教育の仕組みがあります。有機農業研究会など若者の農業を支援しようとしています。原発はないけれど反原発の思いが強い。自然エネルギー促進のために県も頑張っている。豊かな、この長野。羽田次郎さん、どうか勝たせてください。心からお願いを申し上げ、社民党党首としての挨拶といたします。勝ちましょう。よろしくお願いします。

「市民と野党が共に闘う長野モデルで勝利を」

信州市民アクション共同代表 又 坂 常 人

■菅政権の信任を問う選挙

今回の選挙は菅政権に対する信任を問う最初の選挙になります。菅政権が発足して6カ月、国民としてどういう判断を下すのか。菅政治は、理念・哲学に基づくものではなく、単純に自分の権力の維持を目的にした政権です。そのためには彼のスポンサーである一握りのお金持ち、大企業、グローバル資本の求める政策をひたすら実現していく。そして圧倒的な国民の多数を占める名もない権力もない金もない庶民の苦境・苦労は自己責任を強調して切り捨てる。

■菅政治の本質＝弱肉強食の新自由主義

安倍さん以上に徹底的な弱肉強食の新自由主義的な政治、これが菅政治の本質です。もちろん彼は選挙で勝たなくてははいけませんから、携帯電話料金の値下げ、不妊治療の公費助成などの人気取り政策を並べていますが、騙されてはいけません。

信州市民アクションは、菅政治を打破するために、この補選、そして総選挙で、リベラルな政治勢力が多数を占めるための闘いをするために、様々な努力をしてまいりました。わたし達は2月末、羽田次郎候補、また県内3野党と政策協定を締結しました。自公政権に真っ向から対峙する政策を市民のイニシアティブによって、策定し発案し、その実現に向けて、候補者と協定を結ぶ、これは社会契約です。

それによって、市民と野党が共同のテーブルで議論し、かつ、各地区選対で共に闘う、これが長野モデルの闘いです。これは2016年、それから2019年、参議院選挙いずれも長野モデルのもとで闘い、皆さんご存知の通り、自公の候補に圧勝した訳です。



■市民と野党の共同の代表・羽田次郎さん

羽田次郎候補について、世襲とか落下傘とか批判があります。しかし、わたし達は、羽田次郎さんと政策的な合意に達し、大変僭越ですが、羽田次郎さんのお人柄など吟味させて頂きました。そしてその上で、彼は私たちの代表として、市民と野党の共同の代表として、国会に送り出すにふさわしいという結論に達して彼を支援することにした訳です。彼が羽田雄一郎さんの弟だから応援する訳では決してありません。まさに彼が自分自身の能力と人格によって、我々の代表としての地位を勝ち得たことは是非皆様にお伝えしたい。

■格差拡大と戦争、コロナ危機

今、日本は大変な状況に置かれています。アベノミクスと称する出鱈目な経済政策によって格差が拡大し、実質賃金はどんどん低下する。一人当たりGDPは、今や韓国にも抜かれて、世界33位です。韓国は30位です。さらにコロナ無策のおかげで、国民の生活・経済がガタガタになり、オリンピックの先行きは全く不透明。この時期にオリンピックをやるなんて、正気の沙汰とは思えない。そして米中対立が先鋭化するなかで、台湾・尖閣の有事が迫りつつある。日本が当事国として戦争に参加する危険が現実化しつつある。菅さんにも、菅政権にも、この危機を乗り切る、その決意も覚悟も知恵も根性もありません。このまま、この国の舵取りを任せていたら、将来取返しのつかない事

態が発生することは火を見るよりも明らかです。

■日本の命運がこの選挙にかかっている

一刻も早く、菅さんの政治を終わらせなければなりません。この参議院の補選で勝つことが、その第一歩となります。ぜひ貴重な一票を羽田次郎さんに投票して頂きたい。そして自分が投票するだけではなく、一人でも多くの人に、投票所に行ってもらって一票を投じるように、働きかけて頂きたい。なんとしてもこの選挙、勝たなければなりません。わたしはあまり大げさなことは好きじゃありませんけれども、日本の命運がこの選挙にかかっているということを私は心から訴えたいと思います。何とか皆さん、羽田次郎さんを国会に送り出そうではありませんか。がんばりましょう。今日はありがとうございました。

「スモール・ボイス・ファーストで国政にのぞむ」

■市民と野党の統一候補、羽田次郎です

立憲民主党公認、市民と野党の統一候補、羽田次郎と申します。すごい弁士達がお話した後、何を話したらいいのかわからない、困っておりますけど、やはり兄が昨年の暮れ命を落とした新型コロナウイルス、これを一日も早く終息させる。そのためのPCR検査の拡充に加えて、しっかりとした給付が必要です。陽性者が仕事や育児や家事を休むことによって、経済的な負担が増えてしまうことを恐れて、自分が感染しているということを知りながら職場に行き、家事をし、学校に行く、そういったことも今の感染拡大に大きな影響を及ぼしております。

■国がしっかりと生活者を守っていく

そういった「生活が苦しい」、「仕事を休む訳にはいかない」と思う方達にしっかりと給付をする。国民一人や、一つの企業が、この国難と言える新型コロナウイルス感染症に勝てる訳がありません。国がしっかりと生活者を守っていく、国民を守っていく。それを示すことで、感染しても、医療機関に行き、そして笑顔で「ただいま」と家に職場に学校に帰って来られる。笑顔で「おかえり」と受け入れられる。シトラスリボンされている方、沢山いらっしゃいます。新

参議院議員候補

羽田次郎

型コロナによって、陽性になり差別を受ける方もいらっしゃると思います。

■県民の小さな声、声なき声を国政に

わたくし自身も、高校の頃から10年ほど海外で暮らしておりました。海外にいたら、わたくしは外国人で、黄色人種で、アジア人で、馬鹿にされ

差別されることも幾度もございました。わたし自身は少々気も強いですが、自分自身をしっかりと説明することで相互理解を深め、差別を乗り越えてまいりましたが、多くの皆さんは気が強かったり自分自身を説明できる訳ではございません。兄の後継として進んで行くことを決めてから2カ月あまり、信州・長野県内、77市町村ある地域を歩いて聞いてまいりました。

■弱い立場の女性・若者の代弁者に

女性蔑視発言に憤っている女性の方々、結婚して自分の氏が旦那さんの名前に変わることアイデンティティを失ってしまった女性のお話や、明日食べる食



がなくボランティアが配布する食事の列に1時間も並ぶ大学生たちのお話も伺いました。そういった小さな声、声なき声を、国政の場に届けていきたい。スモール・ボイス・ファーストとわたくしは申し上げておりますが、差別のない、生きにくい社会が生きやすい社会に変わっていく。皆さんの声を聞きながら、そういった仕事、活動をしてまいりたいと思っております。

■子どもたちに、安心して安全で平和な日本を

そしてもちろん今回の参議院補欠選挙、兄が命を失うことによって行われる補欠選挙です。兄が掲げ、多くの皆さまから2019年の通常選挙でご支持、ご期待を頂いたチルドレンファースト、子どもたちの未来が、安心して安全で、そして平和である、そんな日本を

つくっていく。兄が残した4年余りの任期、それを実現するために働くものが受け継いでいかなければならない。わたくしはそう思っております。

■市民と野党の統一候補として兄の思いを胸に闘う

どうか今日お集まりの皆さまのお力で、わたくしを国政の場で、皆さまお一人お一人の代弁者として働かせて頂くことを心よりお願い申し上げ、市民の皆さま、そして日本共産党、国民民主党、社会民主党からもご推薦を頂いておりますが、市民と野党の統一候補として兄の思いを胸に抱きながら、この選挙戦を闘ってまいりますので、どうぞ皆さまのお力も、兄同様わたくしに、お繋げくださるよう心よりお願い申し上げ、わたくしの決意表明のご挨拶とさせていただきます。

県内あちこち。羽田次郎さん、元気に遊説



屋代駅前での訴え（12日）



塩尻市広丘高出の交差点で手振り（13日）



小沢一郎・衆議院議員と長和町のお墓参り（12日）

信州市民アクション

- ◆戦争をさせない1000人委員会・信州
長野市県町532-3 電話 026-234-2116 FAX234-0641
- ◆憲法9条を守る県民過半数署名をすすめる会
長野市県町593 電話 026-234-2216 FAX234-2219